



連携事例11

R5.8 更新
(H31.2時点)

銚子円卓会議が取り組む、地域通貨を活用した「地域資源が循環する仕組みづくり」事業



犬吠WAONカードでお買い物

■協働パートナーの種別

NPO	企業	行政	教育	地縁
-----	----	----	----	----

■事業運営団体

・ NPO 法人 BeCOM

■協働パートナー

☆銚子円卓会議

銚子市・銚子市教育委員会・銚子市小中学校校長会・千葉科学大学・銚子商工会議所・銚子信用金庫・銚子商工信用組合・(一社)銚子市観光協会・(一社)銚子青年会議所・銚子商工会議所青年部・NPO 法人 BeCOM

■事業費

☆委託・補助金・企画立案・事業協力

■資金調達手段

☆472万円

*BeCOM が担当している部分の事業費

事業概要

銚子市では、大型店舗が発行する「ご当地電子マネー」の機能を活用して、「すきくるスター」という地域通貨を発行・流通させています。この「すきくるスター」を、地域活性化を図るためのコミュニケーションツールとして広く流通させるため、講演会やワークショップなどを通じて、市民の理解促進と、既存組織や団体が共に地域の課題解決について考える機会の提供やまちづくりの人材育成を図っています。

※すきくる…BeCOM が運営する銚子ポータルサイト「すきっちょ くるっちょ」の略称。『好きです！銚子』『来るでしょ？銚子』の意味。

協働までの経緯

銚子市は、急激な人口減少や財政状況悪化等の課題を抱えていましたが、平成 22 年のイオン出店を機に、市と社は地域活性化に向けた包括提携協定を締結。利用金額の一部が市に寄付されるご当地電子マネーカード（犬吠 WAON）が発行されました。

一方、銚子で「コミュニケーション」をテーマに地域の課題解決に向けた多様な取り組みをしていた NPO 法人 BeCOM は、市民一人ひとりが自立し、支え合う地域づくりのための具体的なツールとして、この犬吠 WAON を活用しようと活動を始めました。

まずは、市内の既存店舗で WAON 決済を可能とする体制を整えようとなりました。その際、カード機能を利用して、市内既存店舗での決済時には、地域通貨「すきくるスター」を発行してもらうこととし、この地域通貨を、消費者が買い物時の割引で活用できることはもちろん、市民による地域貢献活動を選んで寄付できる、売り手よし、買い手よし、地域よしの住民総参加型まちづくりの仕組みを目指しました。

しかし、この仕組みを活かし、地域の活性化につなげるためには、地域通貨の流通強化や仕組みの理解促進が不可欠であり、地域が一体となって取り組む必要がありました。そこで、平成 25 年度に千葉県の「地域コミュニティ活性化支援事業」の募集を知った NPO が、地域通貨をツールとした活性化事業を一緒にやりたいと銚子市、青年会議所、商工会議所に呼びかけました。

地域の状況を憂い、それぞれに活動を行っていた四者は、住民が支え合う、持続可能な地域社会を目指すという目的を共有し、県事業の採択を受けて、各主体の話し合いの場となる円卓会議を設置し、事業を実施することになりました。

主な事業内容(年間スケジュール等)

やりたいと銚子市、青年会議所、商工会議所に呼びかけました。

地域の状況を憂い、それぞれに活動を行っていた四者は、住民が支え合う、持続可能な地域社会を目指すという目的を共有し、県事業の採択を受けて、各主体の話し合いの場となる円卓会議を設置し、事業を実施することになりました。

①円卓会議（月 1 回程度）及び課題別分科会（月 1～2 回程度）

- ②ワークショップ及び講演会（年3～4回程度）
（地域通貨の理解促進と、まちづくりの人材育成を図る。）
- ③外部人材の受入れコーディネート～地方創生インターンシップ事業
- ③地域通貨の活用法や加盟店拡大のための広報・流通強化（通年）
- ④寄付先となる団体の募集・広報（通年）

④ 主な協働パートナーとの役割分担

【NPO】企画、事務局（会計管理）、地域通貨の管理及び活用実践

【地縁団体】企画、広報、地域との連絡調整、事務局補助、情報収集及び提供

【企業】企画、広報、地元企業との連絡調整、事務局補助、情報収集及び提供

【行政】企画、事務局（会議運営・記録管理等）、広報、会議構成員及び庁内の連絡調整、情報収集及び提供

④ 協働事業によって生まれた成果

○地域通貨を使った協働事業は、平成27・28年1月の銚子市成人式で、次世代育成の観点から地域通貨が付与された犬吠WAONカードが記念品となった他、ふるさと納税の謝礼品、円卓会議構成主体が主催する事業における活用が広まるなど、地域通貨を共有することによる社会関係資本の可視化が進んでいます。

平成27年度は、プレミアム付き商品券の電子版としても流通しました。28年度には銚子円卓会議のHP上で、地域通貨の流通数、地域通貨からの寄付ができるようになった他、地域通貨の流通拠点が増え、拠点（商店・事業所・人など）とそのつながりを見える化するコミュニティサイト「ちょうしノート」を構築しました。

事業理解の浸透と、事業財源の確保は同義の部分もあり、個人や企業からの寄付を募る体制の構築を意識的に進めています。

平成29年度事業は地域再生計画に採択され、広く企業版ふるさと納税を募ることができる取組になりました

地域通貨からの寄付ができる端末は、銚子オリジナル「ちょよびー」



地域通貨からの寄付先
高校生プロジェクトと
ご当地キャラクター「ちょよびー」



地域通貨からの寄付先
学生警察支援サークル「スターラビッツ」



コラボのコツ!!

- ★スタート時に事業理念をしっかりと共有
- ★事業の途中も常に全体像と成功イメージを確認
- ★会議をリードするのは「新しい価値の創造」をおもしろいと本気で感じる個人

様々な価値観を持ち、立場の異なる主体が協働する場合には、目的とゴールのイメージを全員が共有していること、お互いの組織の特徴や文化を尊重しあう気遣いと課題を共に乗り越えるための創意工夫が重要です。

ただし、具体的なメリットと細かすぎる役割分担は、事業の規模を小さくしてしまう危険性もあると考えているため、目的が違わないことが確認できれば、まずやってみようというチャレンジ精神を何よりも大事にしています。

④ 今後力を入れていきたいこと

○円卓会議の構成員全員が、常に事業の全体像を共有できる情報共有の仕方の構築が課題と感じています。

○まちづくりワークショップの実践が、銚子市総合計画策定のための市民ワークショップにつながった成果を踏まえ、今年度の円卓会議「まちづくりワークショップ」の方向性と実践方法を、更に先駆的な取組となるよう検討します。まちづくり人材の育成につながる企画を立てながら、市民も地域も、ともに健康で、幸せに暮らし続けるため、ドウタンクとしての役割を果たしていきたいと思えます。

○地域通貨を活用した地域力向上の意義と課題については、特に税務・法務の面から考察する必要があり、BeCOM単体では力不足であると感じます。多様な主体が集う銚子円卓会議ならではの役割を果たし、事業を効果的に実施するため、平成29年度に地域通貨の流通最適規模等調査を行います。

協働事例プロフィール

【活動開始年】 平成14年（法人化：平成14年12月4日） 【活動のPR手法】 <http://www.be-com.jp>

【この事業で活用した補助金】

- ①千葉県：地域コミュニティ活性化支援事業（H25・H26）
- ②（一財）地域活性化センター：地域づくり団体等活動支援事業（H21・H25）
- ③千葉県：ちば中小企業元気づくり基金（H24） 他
- ④銚子市電子版地域通貨発行事業補助金（H27）
- ⑤銚子円卓会議電子地域通貨「すきくるスター」流通拠点拡充事業（H28）

【問い合わせ先】 担当者：西田 美樹 電話番号：0479-25-8870 メールアドレス：info@be-com.jp